

烽

烽とは、緊急時に狼煙や火を上げて緊急を伝えるための施設のことです。当然見通しのよい山の上にある場合が多く、『出雲国風土記』には五つの烽が記されています。ここから国境や海上の警備を行い、変事があると郡の役所や国庁、兵の駐屯地である軍団(2)『出雲国風土記』には意宇、神門、熊谷の三つの軍団が記されています。なほ情報伝えたための古来の軍事政策の最先端と言えます。

五つの烽はすべて見通しのよい場所にあり、とくに嵩山と旅伏山は宍道湖の東西にあって非常に目立ちます。ただこの五烽だけで情報を伝達するのは難しく、このほかにも、これらをつなぐ小規模な同様の施設があったのではないかと考えられます。



豊背山 (大社町稲佐浜より撮影)

出雲郡

馬見烽は、出雲郡家の西北三十二里二百四十歩なり。

神門郡

土根烽は、神門郡家の東南一十四里なり。

出雲市神原町戸倉にある大袋山(三九九m)と考えられる。北には坪背山、南には三刀屋町鍋山を望め、今の木次町あたりにあったと思われる熊谷軍団への情報伝達も大きな役割だった



鯛ノ巣山 (仁多町下阿井より撮影)



横田町大曲の山 (横田町大曲より撮影)



猿政山 (仁多町上阿井より撮影)

御坂山。郡家の西南五十三里なり。即ち此の山に神の御門あり。故、御坂と云ふ。備後と出雲との堺なり。鹽味葛あり。

仁多町阿井の奥、広島県境の猿政山(二二六七m)と考えられている。西側のふもとには、近世以来たたら製鉄を営んできた桜井家の邸宅や可部屋集成館がある。

志努坂野。郡家の西南三十一里なり。紫草少しくあり。



玉峰山 (仁多町亀高より撮影)

玉峰山。郡家の東南一十里なり。古老の傳へに云へらく、山嶺に玉上神を在せまつ。故、玉峰と云ふ。

仁多町亀高の玉峰山(八二〇m)山には巨岩や奇岩が露出し、また雄滝、雌滝をはじめとする多くの滝もあり、神を祀るにふさわしい山。現在ふもとに森林公園が整備されている。



雄滝

大内野。郡家の正南二里なり。紫草少しくあり。

仁多町亀高大内野の北にある低い山とされている。郡家(郡の役所)に近いため、記されたのだらう。



大内野が (J R亀高駅付近より撮影)

出雲郡

多夫志烽は、出雲郡家の正北一十三里四十歩なり。

平田市国富町の旅伏山(四二二m)、松江方面から望むと、宍道湖の西対岸に突き出すようにそびえる形のいい山。宍道湖岸のどこからも見える。まさに烽にぴったりの山だ。



旅伏山

嶋根郡

布自積美烽は、嶋根郡家の正南七里二百一十歩なり。

松江市西川津町の東方にそびえる嵩山(三三三m)、旅伏山と対になって宍道湖東岸にそびえる目立つ山。国庁につなぐ重要な烽だが、隠岐航路からも嵩山を見ることができ、隠岐との

戀山。郡家の正南二十三里なり。古老の傳へに云へらく、和爾(鯉)阿伊村に坐す神、玉日女命を戀ひて上りに到り、爾の時、玉日女命石にて川を塞へまししかば、え言はずして戀ひき。故、戀山と云ふ。

仁多町三成の、鬼の舌震がある山。ワニサメがこのあたりにいる玉日女命に恋をして、川を上って来たところ、わにの恋ふる。が変化して鬼の舌震になったと伝えられる。鬼の舌震は馬木川の中流にある巨岩・奇岩が並ぶ大渓谷で、国の名勝天然記念物に指定されている。



鬼の舌震

菅火野。郡家の正西四里なり。高さ一百二十五丈、周りに一十里あり。峯に神社あり。



城山 (仁多町高田より撮影)

通信にもかかりがあったかもしれない。嵩山は、嶋根郡の山の頂にも記されている。



松江千鳥町の宍道湖岸から見た嵩山、和久羅山。右の和久羅山が人の顔に見える。

布自積美高山。郡家の正南七里二百一十歩なり。高さ二百七十丈、周りに一十里なり。烽あり。

女岳山。郡家の正南二百三十歩なり。女岳山は、布自積美烽である嵩山の南にそびえる和久羅山(二二八二m)とする説と、嵩山の北側に突き出した峰である女岳とする説がある。嵩山と和久羅山は松江市橋北から眺めると人が寝ころんでいる形(和久羅山が顔、嵩山が胸)に見えるため、「ガリバー山」との異名もある。



安来市荒島から中海越しに見た嵩山。中央の細長い山が嵩山で、その右に飛び出した峰を女岳山にあてる説もある。東からも西からもよく見える山だ。